

三重大学教育学部附属特別支援学校 作業学習

人とつながるプリントサービス ～印刷班の活動から～



三重大学教育学部附属特別支援学校の概要

- 校種：知的障害特別支援学校
- 在籍者数：小学部 15名 中学部 15名 高等部 19名 計 49名
- 教育目標：「社会の中で自分らしくたくましく生きる子どもの育成」
障害による学習・生活上の困難さを解消するための指導・支援を図りながら、職業的自立に向けた資質や能力の育成を目指している。



キャリア教育・職業教育の推進

自らの将来に
目標や希望を持つ

未知のことに
興味・関心を持つ

実社会とつながる
リアルな作業学習

チャレンジ精神
コミュニケーション力
社会性等を育成



体験的な学習を中心に、一人一人の可能性を開花させる教育活動の展開

高等部のキャリア教育・職業教育（作業学習）



農園芸

- 1000㎡の農場で1年間を通して、季節ごとの野菜作りを行い、出荷する
- 生産物：いちご・ジャガイモ・玉ねぎ・大根・ピーマン・にんにく 等



印刷（プリントサービス）

- 業務用プリンターを活用し、綿生地にオリジナルデザインを印刷，製品化する
- 製品：Tシャツ・トートバック・靴下 等 布製品



紙工芸

- 牛乳パックのフィルムをはがし、紙すきによる再利用製品づくり
- 製品：はがき、ラベル、メモ帳，祝い箸袋 等

高等部の作業学習・農園芸



高等部の作業学習・紙工芸



高等部の作業学習・印刷デザイン



新たに、印刷デザイン班を創設し、「プリントサービス」に挑戦

- ・作業棟が情報処理棟へと改築されたことをきっかけに、これまでとは全く違うことに挑戦
- ・リコーの業務用ガジェットプリンターを導入
- ・最初は各附属学校園や三重大学学内からの依頼が中心
⇒徐々に外部からの仕事を請け負うように



★プリントサービスの価値★

(1) 特徴

- ・お店で売られているような商品を取り扱うだけでなく、使用する機械や作業工程なども、より実際の会社に近い経験ができる。
- ・1枚当たりの単価が大きいことで、売り上げや利益、損失といったことを意識しながら活動することができる。また、働いた成果がお金につながる金融教育も行うことができる。

実体験を通して学ぶことで、日常生活や将来の自立に直結

(2) 働く力を総合的に育てる

- ・決められた時間に作業を開始・終了する
- ・指示や作業手順を理解し、継続して取り組む
- ・一定の作業量を意識して働く
- ・最後まで責任をもってやり遂げる
- ・お客さまの喜んでくれる姿にふれる
- ・仲間と協力してひとつの製品を作り上げる

**技能だけでなく、働く態度・意識を重視
⇒将来の就労・社会参加につなげる**

立ち上げ当初（1年目）



附属幼稚園への納品



学内の案件を中心に（2年目）



外部との仕事を増やす（3年目）



三重県総合博物館 MieMU



ごかつら池どうぶつパーク

次年度以降の展望

(1) 大学内での定期的な販売

大学生協等に出荷し、市場に流通させることで、自分たちの働きが社会の一役を担っていることを認識させ、努力の結果が収益になることを実感させる。(キャリア教育のねらい)

(2) 地域企業・団体との取組

地域の公共施設やイベント，企業との取引を増やす。自分たちの作った製品が売られていたり，着用してもらったりする様子を見る機会を増やすことで，卒業後の就労に向けて意欲を高めていく。

(3) 金融教育

作業をやり遂げて得たお金をもとに，学校全体に還元する方法を考えることで，将来就労した後も，「必要な物と欲しい物を区別する力」が育てていく。